

# 広陵中だより



学校の教育目標  
～ひびき合い 高め合う生徒～



可児市立広陵中学校

第 11 号 令和 8 年 1 月 23 日

「人権と命を大切にする学校」「明日も来たくなる学校」「笑顔溢れる学校」

校長 桂川 辰也

## 「先生になりたい」が育つ学校

先日、昔の教え子から

「子どもが先生になりたいと言っているが、正直やめてほしいと思っている」

という相談を受けました。



「色々な方面からの理不尽な要求に耐えられるのか」

「自分の時間は確保できるのか」

「心身を壊してしまうのではないか」

そこには、我が子の幸せを願うからこそ様々な不安が  
込められていました。

確かに、教員の仕事には忙しさや負担が伴います。私自身も、部活動や生徒指導で家庭に十分な時間を割けなかった時期があり、反省すべき点が多くあります。一方、得意な分野で子どもたちとトコトン向き合えたからこそ、やりがいや充実感を感じられたのも事実です。

もし、経験や関心のない分野を一人で背負う仕組みであったなら、大きな負担になっていたと思います。

学校への要望については、部活動の地域展開など、教員一人に過度な負担を求める方向へ社会全体が動いています。誰かの自己犠牲の上に成り立つ教育ではなく、それぞれの立場や得意を生かしながら支える形が、少しずつ広がってきていると感じています。

最終的に私は、教え子にこう伝えました。

「幸せかどうかを決めるのは本人。やりたいなら挑戦してみればいい。

合わなければ、別の道を選ぶこともできる。教員も一人の人間であり、家庭人であり、地域の一員として大切にされる時代になりつつあると思うよ。」

全国的に教員志望者が減る中で、広陵中学校には「将来、先生になりたい」と話す生徒がいます。この地域や学校に漂う**一人一人が大切にされているという「安心感」**が、生徒だけではなく教員の良さも引き出し、子どもたちの将来観にもつながっているからではないでしょうか。

2026年も、保護者・地域の皆様と力を合わせ、安全・安心な学校づくりにまい進してまいります。引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

